

---

## 2017年度第3回執行理事会議事録

期日：2017年9月2日（土）13:00～16:30

場所：地質学会事務局

出席者：齋藤常務理事 緒方 岡田 小宮  
坂口 田村 辻森 中澤 杉田 内藤  
西（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：渡部会長 山本  
副会長 松田副会長 安藤 平田 廣木（渡  
部）山田

\*定足数（12, 委任状含む）に対し，出席者  
11名，委任状6名，合計18名の出席。

\*前回議事録の承認

### I. 審議事項

1. 地質学雑誌の投稿編集出版規則改正につ  
いて再提案（中澤）

中澤理事より多数著者文献の省略表記法に  
ついてIsland Arcも準拠するAPAスタイル  
の規則案が再提案された。了承し，理事会で  
審議することとした。

2. geo-Flashの記事の取り扱いについて再  
提案（内藤）

内藤理事からgeo-Flashの掲載基準案が再  
提案された。ただし掲載可否の例につ  
いて修正のうえ執行理事会でメール審議のう  
え，最終案とし，理事会で審議することとし  
た。

3. その他

・理事会資料の確認

・第1回，第2回，第3回執行理事会の議事  
内容からを検討した。札幌大会における  
125周年の記念行事内容についても審議す  
ることとした。

## II. 報告事項

### 1. 全体的報告

- 1) 一家に1枚ポスターは、二次審査のヒアリングには呼ばれなかった。現在文科省内での検討中ということであるが、結果の通知はまだない。
- 2) 関東支部主催、清澄フィールドキャンプ(8/21-25)において参加者の1名が蜂に刺され、大事には至らなかったが、用心のため途中リタイアしたとの報告があった。
- 3) 松山にて9/16支部長会議を開催する(12:45-13:45, 学会本部にて)
  2. 運営財政部会: 総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼, 他団体の募集等>
- 1) NPO法人地球年代学ネットワーク(板谷徹丸理事長)より、地球史研究所開所式(岡山県赤磐市, 10/14-15)の後援依頼→承諾した
- 2) 日本ゼオライト学会より「第33回ゼオライト研究発表会(11/30-12/1)」の協賛依頼→閲覧中
- 3) 地理学連携機構臨時総会の案内(9/30, 三重大学)
- 4) 2017年度山田科学振興財団の研究援助に、本会推薦の平野直人会員(250万円)が採択された。
- 5) 山田科学振興財団の2018年度長期間派遣援助(海外留学助成)の募集: 8/1-10/31, →HP, geo-flash, News誌に掲載
- 6) 2018年度笹川科学研究助成の「学術研究部門」(大学院生, 35歳以下の若手研究者)・「実践研究部門」(NPO, 博物館の所属者)の募集, 9/15-10/16, 申請はnetで→HP, geo-flash, News誌に掲載予定
- 7) 東大気海洋研究所国際研究推進チームより、平成30年度学術研究船(白鳳丸, 新青丸)共同利用公募(9/21締切)と平成31年~33年の学術研究船共同利用公募ならびに企画調整シンポジウムの開催(12/4-6)案内→geo-flash, News誌に掲載
- 8) (一社)学術著作権協会新理事長春山洋右氏挨拶<会員>
  - 1) 今月の入会者(5名)  
正会員(3名): 外山 真, 栗田洋一, 加藤猛士  
院割(2名): 瀬戸大暉, 長谷川大輔
  - 2) 今月の退会者
  - 3) 逝去者(正会員2名): 清水克己(3月25日), 松原 誠(7月10日)
  - 4) 2017年8月末日会員数  
賛助: 28, 名誉: 57, 正会員: 3657(正会員: 3462, 正(院割)会員: 182, 正(学部割)会員: 13) 合計 3742(昨年比 -37)  
<会計>
3. 広報部会: 広報委員会(坂口・小宮・内藤)
  - ・geo-Flashの記事の取り扱いについて再提案する→議案へ
  - ・9/8の文科省記者会でのプレスリリースは内藤理事が担当することとなった。

### 4. 学術研究部会(岡田・山田)

- 1) 行事委員会(岡田)
  - (1) 愛媛大会の予定巡検8件のうち、以下の3件は参加者が実施最低参加者数に達しないため中止とした。C班: 室戸ジオパーク, G班: 岩国-柳井領家帯, H班: アウトリーチ巡検
  - (2) 事前参加登録者数は550人弱
  - (3) 9/8に文科省記者会でプレスリリース(広報委員会担当: 内藤理事)を行うこととなった。
    - 2) 国際交流委員会(井龍)韓国地質学会に会長が出席する方向で再検討。最悪の場合会長メッセージを託す。
    - 3) JIS, 標準担当(中澤: 代斎藤)議論概ね終了。規格協会に送付予定。
    - 4) その他
5. 編集出版部会(中澤・田村・小宮)
  - 1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長, 中澤担当)
    - (1) 編集状況報告(8月20日現在)
      - ・2017年投稿論文 71編[総説21(和文21)・論説27(和文27)・報告10(和文9, 英文1)・ノート1(和文1)・講座1(和文1)・口絵3(和文2, 英文1), 巡検案内8]
      - 査読中: 41, 受理済み: 22(うち特集号10)
      - ・123巻8月号: 愛媛大会巡検案内書(3編)+通常原稿3編(計88ページ)9/3発送
      - ・123巻9月号: 125記念特集「日本の変成岩研究の進展と展望」+通常原稿
      - ・新規特集号の投稿「富山トラフと周辺部の堆積作用と後背テクトニクス」(世話人: 高野 修・中嶋 健・竹内 章)が開始された(125周年記念ではない)。
    - (2) 125周年記念特集号状況
    - (3) 規則改正について
      - ・多数著者論文の略し方について(再提案)→議案へ
  - 2) アイランドアーク編集委員会(田村)
    - (1) 編集状況
      - ・Vol.26 Issue2(2017年3月): 一般原稿6編
      - ・Vol.26 Issue3(2017年5月): 井龍特集号5編(完結), 一般原稿3編
      - ・Vol.26 Issue 4(2017年7月): 特集号5編, 一般原稿4編
      - ・Vol.26 Issue 5(2017年9月): 特集号5編, 一般原稿7編 予定
    - (2) オンライン投稿の状況
    - (3) その他
  - 3) 企画出版委員会(小宮)
    - ・ゆめ基金による教材開発。小宮理事が毎週内容を検討している。若干遅れているが良い内容になっている。概算払い(600万円)の入金があったので9/2に経費運用について、会計担当西理事, 緒方理事, 小宮理事と業者とで協議した。
    - ・ジオルジュ編集部が関わる出版物について出版社と協議し下記の点を確認した。出版物の表紙に「協力: 日本地質学会」と明示, 学会宣伝ページをつくる。学会協力者の氏名明示, 学会協力への謝金, 協力者も

### 著者割サービス。

6. 社会貢献部会(平田・杉田・廣木・辻森)
  - ・巡検実施について、旅行業との関係について多少の議論があり、今後検討の余地を残した。
7. ジオパーク支援委員会(平田)
  - ・第18回地震火山子どもサマースクールin益城町  
8月9日・10日 熊本県益城町, 参加者数(確認中)
  - ・ジオパーク関連  
9月27日 第31回日本ジオパーク委員会開催
  - ユネスコ世界ジオパーク再認定地域(山陰海岸・阿蘇)の国内審査
  - 日本ジオパーク新規認定地域(十勝岳・国引き)の審査
  - 日本ジオパーク再認定地域(10地域)の現地審査予定(10月~11月)  
(下仁田・茨城県北・佐渡・四国西予・三陸・おおいた姫島・おおいた豊後大野・三笠・桜島錦江湾, とかち鹿追)
  - \*ユネスコ世界ジオパーク再認定地域(糸魚川・島原半島)の国際再審査結果は年末年始に連絡がある予定
8. 地学オリンピック支援委員会(平田)
  - ・地学オリンピック関連: 2017年国際地学オリンピックフランス大会報告: 8月22日~29日 フランス・コートダジュールにて開催。日本から4名が参加し、金メダル2, 銀メダル2を受賞, 参加国・地域数は29か国・地域, 参加人数は108名
9. 地質災害委員会(松田達生)
10. 地質技術者教育委員会(山本)
11. 125周年記念事業実行委員会(緒方, 渡部)
  - ・委員会を開催。「はじめての地質学」9月12日発行。寄付額が目標の6割にしか達していない。寄附の促進を図る。実行委員事務局を立ち上げる。そのほか準備が進んでいる。ジオルジュ国際号は地質学会の紹介ページを加えて、発行準備を進める。
12. 県の石支援助委員会(辻森)
  - 書籍のレイアウトまで完成、コンテンツが揃っていない県があり催促中。急ピッチで編集集中。

2017年9月29日

一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長(代表理事) 渡部芳夫  
署名人 執行理事 斎藤 真

## 2017年度第4回執行理事会議事録

期日：2017年10月14日（土）13:00～17:00

場所：地質学会事務局

出席者：渡部会長 齋藤常務理事 安藤 緒方 岡田 坂口 杉田 田村 内藤 平田（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：山本副会長 松田副会長 小宮 辻森 西（齋藤）中澤 廣木（渡部） 山田（委任なし）

\*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者10名、委任状7名、合計18名の出席。

\*前回議事録の承認（9月理事会に配布で承認済み）

### I 審議事項

1. 愛媛大会の中止した17日の発表の扱いについて

・9/17の台風による行事中止の講演要旨の扱いとして、要旨に対する著者のプライオリティ保護の見地からJ-Stageには掲載する。ただし、掲載時には、台風による発表中止を明記しておく。なお、本人からの取り下げ希望があった場合には通常のキャンセルとして対応し、J-Stageには掲載しない。

・台風の影響で参加できなかった事前参加未登録者に対しては、講演要旨集とともに請求書等を送付して登録費（今回限りとして事前申込扱い）を請求する。

・今後悪天等により大会行事を中止した（開催できなかった）場合のルールについては、行事委員会ですらに検討する。

・年会の受付の設置場所については、大会会場内での参加者の導線を考慮して配置するよう気を付ける。当日登録確認のために、会場内では参加者の名札の提示を徹底する。

### II 報告事項

1. 全体的報告

1) 29年度の科研費の実績報告について、17日の行事が中止となったことでアルバイト料の減少もあり残余金が約263,000万円発生した。これについては返却を求められる見込み。28年度科研費（90万円）については確定通知があった。

2) 10/12、地惑連合の学協会長会議開催、および連合理事会にも会長が出席。いくつか概要のみ以下のとおり。

・連合の会員が1万人を超えた。

・2018年度から三宅賞（地球科学協会が元）新設される予定。

・初めてのこととして、日本陸水学会が連合から脱退した。

・来年の日程確定（5/20-24：日～木）。今後数年は幕張国際会議場で開催予定、2021年は横浜パシフィコで6月開催となる。

・当学会の学協会長会議幹事会の幹事の任期は2018年5月まで、その後は各学協会もち

回りとなる。

・学協会宛のアンケート「アジアにおける学協会との協力関係に関するアンケート」については、当学会の現在の学術交流相手について回答した。

3) 各賞選考委員会は、互選により平成29年度の委員長として星理事を選出した。11月30日までの間、応募を受け付ける。

4) 9月10日付にて2018年度代議員および役員選挙の告示を行い、10月13日（金）より11月6日（月）まで立候補の受付を行う。News 9月号とホームページに、実施要領とスケジュールが掲載されている。

5) 電子教材の開発（子どもゆめ基金補助事業）について、仮払金の使用および最終的な会計の執行の仕方などについて、緒方理事と業者とで話し合い（9/6学会事務局）をした。

6) 11/8の中間報告会に小宮理事が出席予定。そこでのプレゼン資料は事前に学会側でチェックを行う。

7) 一家に1枚のポスターは、「自然災害」および「県の石」とも不採択との通知があった。今後、県の石は学会Website等にダウンロードサイトを設ける方向で対応を検討する。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 社会地質学会「第27回環境地質学シンポジウム」（12/1-2）の共催を承諾した。

2) 第15回国際放射線研究集会（10/22-27、共催）の開会式に会長への参加要請があり、出席することとなった。

3) 第55回アイソトープ・放射線研究発表会への参画依頼、協賛が後援かをこちらが選択する。運営委員会への運営委員の参加状況を考慮して、今回は後援とする。

4) 蒲郡市生命の海科学館より、フォトコン展示会の共催依頼を承諾した。

5) 第59回藤原賞（藤原科学財団）の募集、対象は自然科学で所属組織・機関の長の推薦が必要。応募締め切りは12/20、学会の締め切りは11/20とする。→geo-flash、Newsに掲載

6) 山田科学財団「2018年度研究援助候補者の推薦」案内（10/1-2/23）学会推薦は3件まで→ News誌、geo-flashに掲載

7) 東大気海洋研究所より平成30年度、同研究所の共同利用および国際沿岸海洋研究センターの公募（申し込み締め切り11/30）→HP、geo-flashに掲載

8) 千葉県環境生活部より地質学専攻者の公募（8/30-9/19）→ News誌、geo-flashに掲載

9) 地学団体研究会より“原発再稼働に抗議する”、“軍学共同に反対し民生分野の研究条件充実を求める”の2件の声明文が寄せられた。メールにて回覧済み

10) 地理学連携機構臨時総会の報告（9/30、三重大学）メールにて回覧済み

<会員>

1) 今月の入会者（2名）：正会員(2名)：鹿江 宏明、喜岡 新

2) 今月の退会者：正会員(1名)：鈴木竹夫

3) 逝去者：正会員(2名)：河原林育朗（8月31日）・山田徳生（9月2日）

4) 2017年9月末日会員数

賛助：28、名誉：57、正会員：3655（正会員：3460、正（院割）会員：182、正（学部割）会員：13）合計 3740（昨年比 -55）

5) 今年度の会員名簿の発行（2018年3月発行予定）に関し、必要以上の個人情報掲載しないという観点から、退会予定者を名簿に掲載しないこととし、名簿も配布しないこととする。発行は年度内とする。

<会計>

特になし

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）

・ジュンク堂池袋店にて地質関連のブックフェアを11/1-30の期間開催予定。その会場でジオルジュを無料配布する。同店のWebsiteのイベント案内ページに掲載済み。

・地学オリンピック委員会より予選者向けパンフレットに学会の広告を無料で掲載してくれるとのこと、ジオルジュ、ちーとも、小さなESなど掲載の予定（締切10/20）。

4. 学術研究部会（岡田・山田）

1) 行事委員会（岡田）

(1) 愛媛大会は、中日の17日に台風18号による警報がでたため、2日目の全行事を中止した。翌日は予定通りの開催であったが、前日中止した発表のうち、学部学生、院生の口頭およびポスター発表に限り、会場の調整をして実施した。

(2) 巡検は6班が実施され、特に事故もなく安全に終了した。

(3) 小さなES.Sの発表も中止となったため、今回に限りデジタルポスター発表会を実施することとした。理事全員による審査コメントと選考委員による評価がおこなわれ、近日中に結果が出る見込み。

(4) 札幌大会準備状況

・巡検10コース（土日開催）で、2コースはアウトリーチ

・講習会1件、これについては資料の発行が予想されるが、できれば地質学雑誌の「ノート」として掲載を検討してはどうかとの提案があった。

(5) 今後巡検の実施法について、行事委員会と法務委員会に相談しながら早急に検討する。

(6) 札幌大会の普及行事に対し、2018年度の科研費（研究成果公開促進費B）を申請（11月上旬）する。産総研（情報展担当者）、LOC（北大）、行事委員会、事務局と相談して申請書を作成する。

2) 国際交流委員会（井籠）

・韓国地質学会の75周年記念のご招待に対し、会長のメッセージを携えて、井籠国際

交流担当理事および辻森執行理事が出席することになった。なお、費用負担は、往復の交通費は当学会の支出とし、宿泊等は招待側の韓国地質学会が支出するという慣例によった。

- 3) JIS, 標準担当 (中澤:代齋藤)
  - ・原案作成委員会が終了し、報告書を次の審査プロセス (日本規格協会JSA) に載せた。
5. 編集出版部会 (中澤・田村・小宮)
  - 1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長, 中澤担当)
    - (1) 編集状況報告 (10月13日現在).
      - ・2017年 投稿論文 89編 [総説27 (和文27)・論説36 (和文36)・報告11 (和文10, 英文1)・ノート2 (和文2)・講座1 (和文1)・口絵4 (和文3, 英文1), 巡検案内8] 査読中: 52, 受理済み: 18 (うち特集号3)
      - ・123巻9月号: 125記念特集「日本の変成岩研究の進展と展望 (その1)」+通常原稿2編 (計117ページ, 10/5発送)
      - ・123巻10月号: 125記念特集「日本の古津波」&「日本の変成岩研究の進展と展望 (その2)」(計120ページ, 校正中)
      - ・新規特集号の投稿「三次元地質モデル」(世話人: 木村克己ほか) が開始された (125周年記念ではない)。
    - (2) 125周年記念特集号状況
  - 2) アイランドアーク編集委員会 (田村)
    - (1) 編集状況
      - ・Vol.26 Issue2 (2017年3月): 一般原稿6編
      - ・Vol.26 Issue3 (2017年5月): 井龍特集号5編 (完結), 一般原稿3編
      - ・Vol.26 Issue 4 (2017年7月): 特集号5編, 一般原稿4編
      - ・Vol.26 Issue 5 (2017年9月): 特集号5編, 一般原稿7編
      - ・Vol.26 Issue 6 (2017年11月): 特集号2編, 一般原稿5編 予定
    - (2) 特集号および新規特集号
    - (3) オンライン投稿の状況
  - 3) 企画出版委員会 (小宮)
    - ・地方地質誌最後の「東北地方」が出版され、全巻揃った。他の巻より200部ほど発行部数を増やしたとのこと。
6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木・辻森)

特になし
7. ジオパーク支援委員会 (平田)
  - 1) 第18回地震火山こどもサマースクールin益城町
    - ・8月9日・10日 熊本県益城町, 参加者数 (小中高28名)
  - 2) 9月27日 第31回日本ジオパーク委員会開催, 審査結果は以下のとおり。
    - ・ユネスコ世界ジオパーク再認定地域 (山陰海岸・阿蘇) の国内審査: 条件付き再認定
    - ・日本ジオパーク新規認定地域の審査: 十勝岳 (認定見送り)・国引き (認定保留)
  - 3) 日本ジオパーク再認定地域 (10地域) の現地審査予定 (10月~11月)  
(下仁田・茨城県北・佐渡・四国西予・三

- 陸・おおいた姫島・おおいた豊後大野・三笠・桜島錦江湾, とかち鹿追)
- 4) ユネスコ世界ジオパーク再認定地域 (糸魚川・島原半島) の国際再審査結果は12月末以降に連絡がある予定。
- 5) JGNの運営委員会に当支援委員会委員長を参加させてもらう件について, JGNに申し入れを行うこととした。
8. 地学オリンピック支援委員会 (平田)

特になし
9. 地質災害委員会 (松田達生)

特になし
10. 地質技術者教育委員会 (山本)

特になし
11. 125周年記念事業実行委員会 (緒方, 渡部)
  - ・記念出版物「はじめての地質学」(ベレ出版) について, 会計担当西理事と天野編集委員会とが確認の上, ベレ出版と契約書を交わした。また, 拠金者に対し1部ずつ贈呈した。同誌は初版4000部, 現在1500部増刷中とのこと。
  - ・会員証を年内に選挙投票用紙に同封して各会員に発送予定 (退会予定者は除く)。
  - ・会員個人からの寄付実績が予定より低調なため, 各種の機会に案内を繰り返し行う。
12. 県の石支援委員会 (辻森)

特になし

2017年11月11日  
一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長 (代表理事) 渡部芳夫  
署名人 執行理事 齋藤 真

## 2017年度第5回執行理事会議事録

期日: 2017年11月11日 (土) 13:00~17:30

場所: 地質学会事務局

出席者: 渡部会長 山本副会長 松田副会長  
齋藤常務理事 安藤 緒方 岡田 (14時半出) 小宮 坂口 杉田 内藤 辻森  
中澤 西 平田 (事務局) 橋辺  
欠席者 (委任状提出あり): 田村 廣木 山田  
\*定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者 15名, 委任状3名, 合計18名の出席。  
\*前回議事録の承認

### I 審議事項

1. 2018年度名誉会員推薦委員会委員の選出  
・官公庁: 加藤碩一 (産総研), 小中高教員: 会田信行 (秀明大学校教師部), 会社: 足立勝治 (アジア航測), 大学: 木村 学 (東京海洋大学) \*以上の方に承諾いただいた  
・理事会で1名選出  
・職責委員 (各支部長) 7名: 竹下 徹, 柴正敏, 有馬 真, 大藤 茂, 三田村宗樹,

- 石塚英男, 仲谷英夫
2. 選挙開票立会人の選出2名 (開票日1/11木, 3/8木)  
角和善隆 (明治大), 上原啓幹 (東大院生)
3. 『地質学雑誌オープンファイル掲載細則』の改正案について  
特に多様なファイルを電子付録に掲載できるように対応することを検討した。改訂案を次回理事会までに作成し理事会に諮る。
4. 2017年度事業経過報告及び2018年度事業計画骨子 (案) について  
・事業経過報告は, 各部会等に早急に出してもらう。  
・2018年度の事業計画を逐条詳細に検討し, 項目の構造を含め大きく改訂することとした。
5. 12月理事会審議事項  
・総会の日程について  
・名誉会員推薦委員会委員の選出について, 理事会推薦委員1名の選出  
・創立125周年記念事業について  
・『地質学雑誌オープンファイル掲載細則』の改正について  
・2017年度事業経過報告  
・2018年度事業計画骨子 (案)
6. ジオルジュの今後の発行について  
・ジオルジュ 2018年前期号については, 新規編集体制 (編集長北村有迅, マネージメント坂口有人) で出版作業を進める。後期号については新規スポンサー企業確保を進めながら, 販売戦略を十分に立てた上での成果を考慮し, 次期の理事会で検討する。とりあえず, 2018年度予算は2号分とする。

### II 報告事項

1. 全体的報告
  - 1) JpGUのジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science (愛称, 「PEPS」)」が, Elsevierが管理する「Scopus」への登録が採択された。
  - 2) 第15回国際放射線虫研究集会 (地質学会共催, 新潟市, 2017/10/23-27) に会長が出席し挨拶。
  - 3) ジオルジュを地学オリンピック予選参加者 (2000名) に提供するため, 後期号の印刷部数を1000部増刷した。今号には地学オリンピックの広告は掲載済み。
  - 4) 小さなE.S.デジタルポスター発表会の結果 (地学教育委員会 三次委員長)  
参加22件中, 理事の審査により 優秀賞4件, 奨励賞7件を授与することとした。今回は台風による突然の中止という事情も勘案し, 奨励賞の授与を厚くすることを考慮した。
  - 5) 札幌大会の“市民講演会「一動く大地のしくみを知り, 地震・津波災害に備える」および地質情報展2018はっかいどう”について, 科研費を申請した。日程: 9月7日 (金) ~9日 (日), 会場: 道民活動センターかでの27

6) 11/9選挙管理委員会の開催、立候補者はすべて定数内であったので、会長・副会長の意向調査は実施するが、代議員の投票は行わない。立候補者合計147名：全国区81名、地方区66名選挙広報等の送付11月4週目中の予定。

7) 子どもゆめ基金の進捗状況のヒアリングが11/8に実施された。いくつか注文のついたことについては早急に検討、対応の上完成させる。12月の理事会では、ヒアリングで発表した程度の内容を見せることができる。(小宮理事)

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方・西)  
<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 消防防災科学技術研究推進制度平成30年度研究開発課題の募集、募集期間10/19-12/20→ News誌、HP、geo-flashに掲載  
2) 神奈川県立生命の星地球博物館特別展「地球をほぎ取る～地層が伝える大地の記録」(7/15-11/5)の終了報告あり。

<会員>

1) 今月の入会者 なし  
2) 今月の退会者 なし  
3) 逝去者：正会員(1名) 中村昭勇(10/12)  
4) 2017年9月末日会員数

賛助：28、名誉：57、正会員：3660(正会員：3462、正(院割)会員：184、正(学部割)会員：14)合計 3745(昨年比 -53)

<会計>

1) 愛媛大会の収支については、40万円強の赤字予定。愛媛大学の施設使用料の無料化、LOCによる協賛金の募集(39万円)と台風による1日分のバイト代(約25万円)の支出なしが大きく影響。松山観光コンベンションおよび愛媛県からの補助金はなしとなる。

3. 広報部会：広報委員会(坂口・小宮・内藤)

・ジュンク堂池袋本店にて日本地質学会関連のブックフェアを11/1-30の期間開催中。会場でジオルジュを無料配布し、好評につき追加要請あり。

・ジオルジュ 2017年後期号が出版され、企画協賛記事の掲載はスポンサー企業の好評

を得ている。

4. 学術研究部会(岡田・山田)

1) 行事委員会(岡田)

・北海道大会関係：LOCの方で学会運営会社について、イベント業者に見積もりを依頼中。業者の決定は本部がおこなうことは連絡済み。

2) 国際交流委員会(井龍)

・大韓地質学会70周年記念、2017年秋期地質連合大会(10月25-26日：韓国済州国際コンベンションセンター)に、井龍理事(国際交流委員長)および辻森理事(会長代理)が招待され、それぞれ国際セッションで講演した。日本地球化学会からも会長以下3名が招待されており、共に格別な接待を受けた。

・IGC2024釜山大会で日本に協力要請されている巡検(10コース)について、話題となった。

・当学会との学術交流協定が5年を経過したので協定書を更新した。

・10月26日にはIGCP608第5回国際シンポジウムも開催され日本からは11名が参加し、大韓地質学会70周年記念祝賀会にも参加した。

3) JIS、標準担当(中澤)

特になし

5. 編集出版部会(中澤・田村・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長、中澤担当)

(1) 編集状況報告(10月13日現在)

・2017年投稿論文 95編[総説28(和文28)・論説39(和文39)・報告11(和文10、英文1)・ノート2(和文2)・講座2(和文2)・口絵5(和文4、英文1)、巡検案内8]査読中：49、受理済み：19(うち特集号5)  
・123巻10月号：125記念特集「日本の古津波」&「日本の変成岩研究の進展と展望(その2)」(計120ページ、11/1発送済み)

・123巻11月号(通常号)：論説3、報告4(計70ページ、校正中)

(2) 125周年記念特集号状況

投稿状況、今後の印刷状況について報告された。

(3) 『地質学雑誌オープンファイル掲載細則』改正案を検討

2) アイランドアーク編集委員会(田村)

(1) 編集状況報告

順調であることが書面で報告された。

3) 企画出版委員会(小宮)

特になし

6. 社会貢献部会(平田・杉田・廣木・辻森)

特になし

7. ジオパーク支援委員会(平田)

特になし

8. 地学オリンピック支援委員会(平田)

特になし

9. 地質災害委員会(松田達生)

特になし

10. 地質技術者教育委員会(山本)

特になし

11. 125周年記念事業実行委員会(緒方、渡部)

・矢島委員長による報告(13時20分～)

・125周年記念式典での表彰について

・札幌大会での125周年記念国際シンポジウムについて

・連携協定を結んでいる海外5学会(イギリス、韓国、タイ、モンゴル、台湾)の代表を招聘し、シンポジウムを開催。内容・詳細は国際交流委員会、行事委員会、125周年委員会担当で協議。2018年のフォトコンテストに125周年記念特別賞を設ける

・緒方委員による125周年記念事業の財政関係の報告

・個人寄付が伸びていないこと、経費の支出計画等についての報告があった。

・会員証が完成したので、選挙広報とともに会員に送付する。

12. 県の石支援委員会(辻森)

現時点では、予定通りの刊行は難しそうな状況にある。

2017年12月2日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長(代表理事) 渡部芳夫

署名人 執行理事 斎藤真